

報 知

◎流体科学研究所の開所式が行われた

流体科学研究所の開所式が7月7日(金)午後2時から仙台第二ワシントンホテルレインボーホールで、大谷学長はじめ学内外の関係者約150名が出席して行われました。

式典に先立ち同研究所の相原利雄教授から新研究所の紹介、そして近藤次郎日本学会会議会長(東大名誉教授)による「流体科学の今後の課題」と題する記念講演がありました。



(神山所長の式辞)

式典では、神山所長から「本研究所の使命はこれからが正念場です。研究所職員一同心を新たに、所期の研究業績をあげるよう万全の力を尽くす覚悟です。」との式辞、次いで、大谷学長から「新研究所は、今後の流体科学の根幹をなすものであり、その担う責任はまことに大きいものがあります。同研究所の発足にあたり、研究所職員一同総力をあげて精進され、学術研究の飛躍的な発展を期し、御尽力をいただきたいと思います。」との挨拶があり、続いて、文部省学術国際局研究機関課長補佐高塩至氏及び宇宙科学研究所長西村純氏から来賓祝辞がありました。

流体科学研究所は12部門、1研究施設から構成されており、これらの12部門はその研究内容



(祝賀会風景)

によって、各々4部門ずつの3グループに大別され、各グループ内で緊密かつ有機的な連携の下に、グループを横断する大型プロジェクトの立案ならびにその遂行が容易に行えるよう組織されております。

各グループの研究テーマは次のとおりです。

- 極限状態下の流動現象および固体の生成・破壊現象を対象とする研究
- 流れと熱伝達の超精密制御とその応用を対象とする研究
- 機能流体の生成と流動特性の解明およびその応用を対象とする研究